

J A 自己改革推進レポートについて

令和5年11月24日
J A 鳥取県中央会

1. J A 自己改革実践状況

(1) J A 鳥取いなばの取り組み

①「あんぽ柿」加工始まる 特産品で活性化

J A 鳥取いなば広域あんぽ柿加工施設で10月17日、特産の柿「西条」を使用した「あんぽ柿」の加工がスタートした。農業者の所得増大に向け、管内で栽培する柿を「あんぽ柿」に加工し、有利販売につなげる。

同加工施設では、約8万パック（1パック2～4個）製造し、販売高約2800万円を計画している。加工作業は11月末まで続き、関東や関西などに出荷する。



②地域農業を守り食料自給力向上をめざす運動

J A 鳥取いなば女性会は10月19日、鳥取市の同 J A 高草支店管内で、「地域農業を守り食料自給力向上をめざす運動交流会」を4年ぶりに通常開催した。女性会と一般生産者、J A 職員ら45人が参加。地産地消の拡大、自給力向上へ向けて活発に意見を交わし、生産者と消費者の相互理解を深めた。鳥取市の農事組合法人河内こわらびのほ場でラッカセイの収穫体験も行い、ラッカセイのおこわや塩ゆでなどを味わった。



③第29回福部らっきょう生産振興大会

J A鳥取いなばと福部らっきょう生産組合は10月28日、第29回福部らっきょう生産振興大会を福部町コミュニティセンター多目的ホールで4年ぶりに開催した。生産者やJ A、行政など約100人が出席。令和6年度の目標として、作付面積を109.3㍊、出荷量は1500㍊と決めた。大会では、大阪中央青果蔬菜部の鎌田和土課長が現状や展望について市場からの提言をした。また、鳥取大学フィールドサイエンスセンターの野波和好センター長が「ラッキョウ生産における作業省力化に向けた取り組み」と題して講演を行った。



以上